

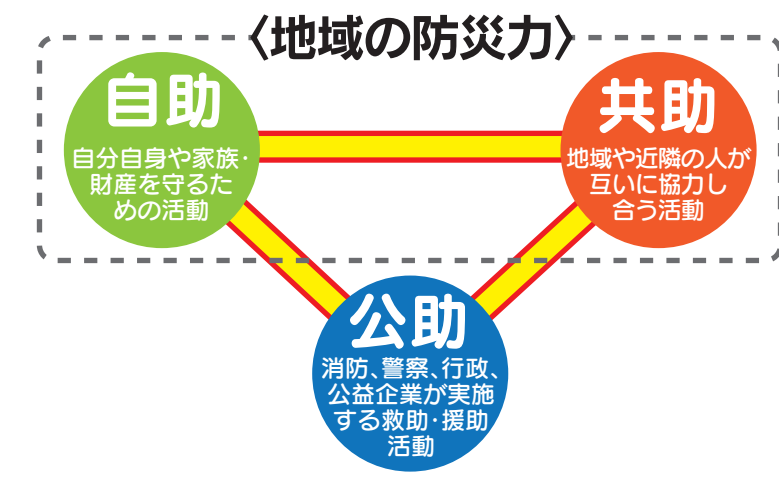
自主防災組織

災害に強い地域をつくりませんか？

地域の防災力

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動(公助)は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える(自助)とともに、地域での助け合い(共助)による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取り組みを始めてみませんか？



1. 自主防災組織とは？

- 災害発生時にはもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
- 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。



2. なぜ、自主防災組織が必要なの？

- 大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。
- このような時、地域の皆さんと一緒に協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。
- より効率よく、さまざまな活動をするためにも事前の準備(=体制づくり)が重要です。

●各班の日頃(平常時)と緊急時(災害発生時)の活動内容は概ね次のような役割になります。(例)

	本部	情報班	消火班	避難誘導班	救出救護班	給食・給水班
平常時	<ul style="list-style-type: none"> ○地区防災計画の作成、見直し ○防災意識の啓発 ○防災訓練の計画・実施・評価等 	<ul style="list-style-type: none"> ○住民に対する連絡体制、手段の検討 ○情報収集・伝達訓練の実施・指導 ○地域内の災害危険箇所の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○消防団等と連携した初期消火訓練の実施 ○消火用水の確保、確認 ○出火防止の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に避難路、避難場所を把握(予備を含む。) ○避難誘導訓練の実施 ○避難路の安全点検 ○危険箇所(がけ、ブロック塀)などの確認等 ○避難行動要配慮者の把握、避難要領の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○衛生救護知識の普及・啓発 ○応急医薬品・救助用資機材の点検・確保 ○衛生ノウハウ保有者の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○食料、飲料水の個人備蓄についての普及啓発 ○炊き出し訓練の実施 ○炊き出し用資機材の確保、点検 ○食品等の衛生・管理
緊急時	<ul style="list-style-type: none"> ○自主防災組織内各班の指揮(運用・統制) ○地域住民の安否確認 ○町及び関係機関との連携確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達 ○地域内の被害情報を収集し本部へ報告 ○危険箇所の把握、表示等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○初期消火活動 ○消防署、消防団の到着までの延焼拡大を防ぐのが基本ですので無理はしないこと!! ○情報班と連携しての出火防止等の広報 	<ul style="list-style-type: none"> ○本部と連携して避難の呼びかけ ○安全な経路を選択して避難誘導 ○避難行動要配慮者の避難支援 ○避難場所での安否確認 ○安否確認による救出救護班への情報伝達 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難誘導班と連携して速やかな救出 ○救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意すること!! ○負傷者の搬送、応急手当等の救護 ○避難所・救護所で救護活動への協力 	<ul style="list-style-type: none"> ○食料や水、救援物資等の受入れ、配付 ○必要に応じて炊き出し ○炊き出し時の衛生管理

※地域の特性に応じた、組織作り及び活動を行うとともに、継続的に防災訓練を行いましょう